

1-2 乗船・下船時における 船員の趣味の実態

目 次

A 調査の目的と方法，経過について	18
B 実施人数からみた，船員の趣味について	21
C 趣味活動の具体例	26
D 実施人数の比較的多い趣味活動の内容の実態について	27
E 今後の課題	27

A 調査の目的と方法，経過について

目的：

船員という職業は，乗船・休暇という生活の大きなサイクルがある。このサイクルを通して，船員という個人が，仕事以外に，どのように人間らしく生活しているであろうか？どのように生き生きと生活しているであろうか？このような素直な疑問をもって，これまでの幾多の資料に目を通して見たが，いづれも，船員達という集団に目をむけた資料が多く，個人が乗船・休暇をどのように結びつけて生活しているかについてふれているものを見つけることはできなかった。

そこで，今回は，船員がどのような趣味を持ち，どのように趣味活動をおこなっているかを明らかにしてみたいと考えた。そして，乗船・休暇というサイクルをうまく利用している趣味，乗船している時にこそできる趣味等趣味自体のもつ特性を，船員がいかにより生活にとりいれているかについても分析してみたいと考えた。

※ 通省産業省余暇開発産業室編「わが国余暇の現状と余暇時代への展望」より

このようなことを明らかにすることは，これから趣味をもとうとしている船員や，現在の趣味活動にゆきづまりを感じている船員にとって意義があるばかりでなく，日本社会全体の流れがいわゆる余暇時代へとむかっている現在，船員社会にとっても大きな意義があると考えられる。

昭和47年の労働省の調査によると，全企業の13%，労働者数では35%以上が，何らかの形で週休2日制をとっていることが明らかにされている。船員の場合も，年間休暇が徐々にふえ，平均年間休暇が外航船員は90日，内航船員は70日となり，将来100日をこえるという時代が目前にきているといえる。しかし，客観的にはこのように休暇日数が労働日数の $\frac{1}{3}$ にせまりつつあるにもかかわらず，一般的に労働者の多くは何かしら，一年中働かされているような意識をもち，ましてや，休暇日を積極的に自分を生かすために生活しようという意識は，まだまだ低い水準にあるといっても過言ではあるまい。これは，たとえば，余暇に何をしているかという調査をみると，表A-1*（略）のごとく，男女とも，テレビ・ゴロ寝という休養型の余暇をすごしている人が多く（余暇時間のうちの男は $\frac{2}{3}$ ，女は $\frac{3}{4}$ ），諸外国にくらべ，圧倒的に大きな比率になっていることからいえる。これに対し，諸外国では活動型余暇が多い。すなわち，スポーツ活動や旅行などのいわゆる戸外での活動や，趣味・娯楽などや，またつきあい・団らん・会合等の交際活動，読書・教養等の活動等が，日本人よりも多くなっている。船員の場合も，昨年の本報告書にのべたごとく，航海中の自由時間は，読書，ゴロ寝（休息）が多く，また停泊時には船内船外ともに休息が多く，つぎに娯楽，とくにみる娯楽が多いことが

わかっている。休暇中も同じく、ラジオ、テレビ、雑談等が多い。つまり、上述したような、大はばな休日休暇という余暇を消化するに際して、船員を含む日本人には、もちろん年齢による多少の差は否定できないが、余暇を積極的に過ごすという面では、ある種のとまどいを感じている人が多いといえよう。過去において、『働くことは善であり、遊ぶことは悪である』というふうに感じられる社会を無意識にせよ、維持してきた日本人にとっては、休日・休暇という仕事をしない日に対する自分自身へのいっわけが十分にみつからないことに加えて、いったい休みに何をしたらよいかわからない人が多いからであろう。

このことは、一口にいえば、日本人が得た休日・休暇は、いわば他律的に与えられたものであり、日本人の余暇に対する要求から獲得したものではなかったからといえなくもないであろう。すなわち、日本人が戦前の長時間労働から解放されたのは、敗戦後の、占領軍指導の労働基準法の制定によって他律的に得たものであり、また週休2日制は、会社の人あつめ政策の苦肉の策として実施されつつあるともいえるからである。外国人だけではなく、日本人同志の間でさえ、「日本人はなぜよく働くか」というような勤労精神の日本的特徴が云々されるほどの“よく働く日本人”が、意識の中で、いぜんとして残っているのである。週休2日制と1日半制の合計が労働者の94%をしめるイギリス(1968年)、90%のフランス(1970年)にくらべ、日本ではわずか35%(1972年)であるにすぎないのに、なおかつ、「余暇は現状のままでも収入がふえた方がよい」とする日本人が、東京の労働者には52%もあり、

ロンドンの49%、パリの28%より多くなっていることでも、その一端をみることができる。これは、同調査による、「仕事が生きがいである」という人が、東京には上記2都市の4倍もいることに加えて、実際には余暇を積極的に生活するには、国に豊かさが足りないことも一因するであろう。

豊かさを、いわゆるGNP(Gross National Production)という貨幣量であらわず言葉に対して生まれた、NNW(Net National Welfare)国民純福祉という言葉は、豊かさを、栄養、健康、教育、余暇、安全等の社会福祉の指標であらわしてみようという、試みのあらわれのひとつの言葉であろう。たとえば、NNWのストックの内わけから日本の豊かさをみると、現在のところ、日本が諸外国に比して高いのは、冷蔵庫、洗濯機、自動車といったような私的ストックに分類されるものだけであり、大気、水、景観といった自然ストックや、住宅、道路、都市公園等の社会資本ストック、教員、看護婦、医師等の人的ストック、文化財等の文化的ストック、社会保障制度等の社会制度ストック等、すべてが低いことが推測できる。(まだ明らかな数字で示せるまで内容が固定していない。)つまり、NNWが低いということが、この国民の余暇活動を、範囲のせまい、限られたものに規制しているとも考えられる。

雑誌・テレビ等で、「余暇の使い方」とか、「来るべき余暇時代の生き方」ということが特集されることが多くなっている。余暇活動のうちの趣味活動について、船員の実態の一端ではあるが、明らかにすることによって、今後の船員福祉のあり方を考える一助にもなれば幸いで

ある。

方法：

上記のような目的を達成するために“趣味のアンケート”を作成した。(附表1略)

アンケートは、以下の質問項目からなりたっている。

i 現在、一番熱心に行っている趣味活動

(誰と、いつ、1年間にどの位、その費用、はじめた時の年齢・職種、動機、目的、外部からの評価等)

ii 今はやめている趣味

(はじめた時の年齢、やめた時の年齢・職種、やめた理由、再びはじめる意志の有無等)

iii 学生時代の部活動

(活動時期、部内での地位等)

iiii 将来、はじめてみたい趣味

(個人で、仲間で)

調査対象者は、今回は外労協の中核6社の船員とし、休暇中に実施している趣味が多いことも考慮にいれ、予備員に対して実施することにした。

今回のアンケート調査は、船員がどのような趣味をもって活動しているのか、その実態を明らかにすることに主眼があるが、他方、もう少し詳しくわしくその趣味を知ったり、船員仲間を紹介したいと考えた場合、直接インタビュー等によってこの調査をさらにすすめていくことが考えられる。そこで、予備員のうちでも、東京を中心とする1都3県在住者と、阪神、瀬戸内在住者に対して調査をおこなうことにした。

経過：

アンケート用紙の配布は'73年11月~12月に行った。6社から、阪神瀬戸内と一都3県在住で予備員のリストを送付してもらい、表A

-2に示すごとく、阪神瀬戸内で405、一都3県で203のアンケート用紙を自宅に配布した。記入は、原則的にはアンケート用紙入手後5日間で記入し、研究所宛に直接返送してもらった。

締切りは'74年1月におこなった。回収は表A-3のごとく阪神瀬戸内114通、1都3県50通、計164通であり、回収率は27.0%であった。

表A-2

		阪神 瀬戸内	1都 3県
発 送 '73 ・ 11月 ~ 12月	山下新日本	36	29
	日本郵船	66	50
	商船三井	75	39
	川崎汽船	91	24
	ジャパンライン	90	28
	昭和海運	47	33
小計		405	203
回収	'74・1月〆切り	114	50

表A-3 職部別・年齢別集計

年齢層	阪神瀬戸内		1都3県		計		
	職 員	部 員	職 員	部 員	職 員	部 員	計
20才代	16人	9	6	1	22	10	32
30	14	14	14	4	28	18	46
40	26	23	13	6	39	29	68
50	2	3	6	0	8	3	11
不備	7		0		7		7
計	114		50		97+7+60		164

なお、一般的にはアンケートの回収率は3割前後が多いのであるが、船員に対するアンケートのこれまでの多くは5割以上の回収率をもっている。

そこで、今回の回収率に関して以下のことを推測しておく。

- ① 郵便局のストライキの実施が11月から12月にかけて行われ、このことが原因で、船員の休暇とアンケート入手の時期がずれた場合。
- ② アンケートの内容に関することであるが、あくまでもこのアンケートは、「ゼニ、ヒマをかけてもやりたい趣味」について質問してあるので、そのような趣味をもっていない人は全く記入もしないし返送もしなかった場合。
- ③ 個人的な忙しい時期とかちあった場合。

特に年賀状を準備する時期とかちあったかもしれない。

これらのことから、B章以下の結果については、該当者の人数について主としてとりあげることとし、割合(%)については今回はふれることをさけた。特に上記②については、調査表に「該当する趣味のない人は“なし”と書いて返送して下さい」という説明をいれるべきであった。

B 実施人数からみた、船員の趣味の実態について

1. 職員部員別結果

a, 現在の趣味活動

現在の趣味活動としては、あらかじめ、質問紙において、「あなたが現在、最も力をいれて行なっている趣味活動」で、「世俗的にいえばゼニ・ヒマをかけても行いたいと考えている」趣味活動を、1種目にかぎって質問した結果で

ある。職員は98名中、趣味ナシの2人を除く96人が、部員は63名中、趣味ナシの11人を除く52人が、1人1種目あげた結果である。なお、これに対して、表2以下は複数回答であり、該当するものが1つ以上ある人は複数の解答をあげていることを注意して、以下をおよみ願いたい。

現在の趣味活動の実態は表B-1-a-1のとおりである。(本文略)

b, 学生時代の部活動について

学生時代の部活動(クラブ活動、又は同好会活動)について、その経験をみると、表B-1-b-1のごとくである。(本文略)

c, やめてしまった趣味活動

現在やめている趣味についてみると、表B-1-c-1のごとくである。(本文略)

d, 今後やりたい趣味 一人一人で(略)

e, 今後やりたい趣味 一仲間で(略)

2. 年令別結果

10才区切りで20才代、30才代、40才代、50才代と年令層にわけて、趣味活動をみると、表B-2のごとくである(本文略)

3. 船員の趣味活動の特徴について

- ① 実施時期をみると、多くの趣味において、多くの人が休暇中をあげているのが特徴である。しかし、乗船中(停泊時を含む)もなされているものは、ゴルフ、つり、アマチュア無線、民芸品、切手、コイン収集、油絵、絵画、鉄道車輛、帆船模型づくり、彫刻、木工細工、奇術、詩吟、音楽鑑賞、洋らん栽培、英会話、囲碁、尺八、サッカー(ボールをける)等がある。

表B-1-a-1. 現在の趣味。(職員98名, 部員63名について) 1973

	1 都 3 県			阪神・瀬戸内			計		
	職員	部員	小計	職員	部員	小計	職員	部員	計
ゴルフ	17	1	18	30	5	35	47	6	53
日曜大工・木工細工	1	2	3	2	5	7	3	8	11
園芸・盆栽	1	1	2	1	4	5	3	6	9
つり	3	0	3	2	4	6	5	4	9
ドライブ	2	1	3	2	2	4	4	3	7
名所旧蹟				2	4	6	2	4	6
音楽鑑賞(オーディオ)	2	0	2	2	1	3	4	1	5
写真, 8%	1	0	1	0	3	3	1	3	4
旅行	1	0	1	0	3	3	1	3	4
囲碁				3	0	3	3	0	3
民芸品収集				2	1	3	2	1	3
コイン収集				2	0	2	2	0	2
プラモデル・帆船模型				0	2	2	0	2	2
スキ	1	0	1	1	0	1	2	0	2
剣道	1	1	2				1	1	2
アマチュア無線	1	0	1	1	0	1	2	0	2
尺八				0	2	2	0	2	2
ギター, 音楽演奏	0	1	1	0	1	1	0	2	2
油絵・絵画	2	0	2				2	0	2
将棋				0	1	1	0	1	1
彫刻				0	1	1	0	1	1
体力づくりトレーニング				1	0	1	1	0	1
サッカー				1	0	1	1	0	1
ボウリング				0	1	1	0	1	1
モーターボート				1	0	1	1	0	1
ラグビー	1	0	1				1	0	1
ヨット	1	0	1				1	0	1
テニス	1	0	1				1	0	1
狩猟	0	1	1				0	1	1
奇術				0	1	1	0	1	1
日本古代史研究				1	0	1	1	0	1
鉄道車輛	1	0	1				1	0	1
熱帯魚飼育	1	0	1				1	0	1
英会話				0	1	1	0	1	1
OR	1	0	1				1	0	1
詩吟				1	0	1	1	0	1
推理小説読む・創る				1	0	1	1	0	1
ナシ	0	3	3	2	8	10	2	11	13米
計	39人	11人	50人	59人	52人	111人	98人	63人	161人
	19種類	7種類	20種類	18種類	18種類	28種類	28種類	20種類	37種類

＊うち仕事1

表B-1-b-1. 学生時代の部活動(職員98名, 部員62名について)1973

		1都3県職員 (39人)		阪神・瀬戸内 職員(59人)		職員計	1都3県部員 (11人)		阪神・瀬戸内 部員(51人)		部員計
**	弓道			1		1					
**	剣道	4		3	初段1	7			1		1
**	柔道	6	長2, マ1	8	長2, 二段1	14	1	長1	2		3
**	ラグビー	3	長3	4	長1	7					
**	サッカー	1	長1	5	長1	6					
**	野球	2		7	長1, マ2	9	1		5	長2	6
**	バレー	2	マ1	2		4			1		1
**	卓球	2	長1	4	長1	6			2		2
**	空手	1		2	マ1	3					
	山岳	1		1		2					
	ヨット	4		1		5					
**	バスケット	1		1	長1	2			3	長1	3
**	体操	2				2			2		2
**	ボート	1		1		2					
**	テニス	1		5	長1, マ1	6					
**	自動車	1				1					
**	水泳			4	長1, マ1	4	1				1
**	ハンドボール			1	長1	1					
**	すもう			5	長4	5			1		1
**	陸上			2	長1	2	1		4		5
**	カッター			1	長1	1					
**	グライダー			1		1					
	小計	(32)	(長7, マ2)	(59)	(長16, マ5)	(91)	(4)	(長1)	(21)	(長3)	(25)
oo	ESS	3	長1			3					
o	絵画	2	長1			2			図工 1		1
o	音楽	1		コーラス 1		2	コーラス 1	長1	2		3
o	ラッパ	1	長1			1					
oo	新聞	1	長1			1					
o	文芸	1		3	長2	4					
o	写真	1				1					
o	吹奏楽部	1		1		2					
oo	生物	2		1		3			水産物 1		1
oo	地歴	1				1					
o	尺八	1		1		2					
o	園芸	1				1					
oo	図書			1	長1	1					
o	書道			1	長1	1					
o	ハワイヤンソング			1		1			電気クラブ 1		1
o	珠算			1	長1	1					
	小計	(16)	(長4)	(11)	(長5)	(27)	(1)		(5)		(6)
	計	48	(長11, マ2)	70	(長21, マ5)	118	5	(長1)	26	(長3)	31
						(長32, マ7)					(長4)

注1. 但し, 長は部長, 副部長であった人数, マはマネージャーであった人数を示す。
 ** 競技型スポーツ o 創作活動 oo 学習活動

表B-1-c-1. 現在やめている趣味（職員98名、部員62名について）

複数回答 1973

趣味名	職員(98人)				部員(62人)				計(160人)			
	人数	再びはじめる意志			人数	再びはじめる意志			人数	再びはじめる意志		
		有	無	NA		有	無	NA		有	無	NA
切手収集	11	3	7	1	6	3	2	1	17	6	9	2
貨幣, コイン古銭収集	3	1	1	1	2	2	0	0	5	3	1	1
貝類収集	1	1	0	0					1	1	0	0
写真, 8%道	16	11	4	1	6	6	0	0	22	17	4	1
書	1	1	0	0					1	1	0	0
絵画	4	4	0	0	4	2	1	1	8	6	1	1
小説創作	1	1	0	0					1	1	0	0
フルート	1	1	0	0					1	1	0	0
ギター	1	1	0	0					1	1	0	0
オーディオアンプ作成	1	1	0	0					1	1	0	0
音楽鑑賞	1	1	0	0					1	1	0	0
謡曲	1	1	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0
ボトルシップ	1	1	0	0					1	1	0	0
囲碁	4	2	1	1	2	2	0	0	6	4	1	1
テニス	1	1	0	0					1	1	0	0
ゴルフ	6	4	1	1	1	1	0	0	7	5	1	1
ボリಂಗ	1	1	0	0	3	1	1	1	4	2	1	1
ヨット	1	1	0	0					1	1	0	0
空手	1	1	0	0					1	1	0	0
山歩	2	2	0	0					2	2	0	0
名所旧蹟	1	1	0	0					1	1	0	0
つり	3	3	0	0	1	0	0	1	4	3	0	1
園芸	1	1	0	0					1	1	0	0
射撃	1	1	0	0					1	1	0	0
剣道	1	1	0	0					1	1	0	0
すも	1	1	0	0					1	1	0	0
野球	2	2	0	0					2	2	0	0
柔道	1	1	0	0					1	1	0	0
卓球	2	1	1	0					2	1	1	0
現代数学トロボジー	1	1	0	0					1	1	0	0
短詩型文学と創作					1	1	0	0	1	1	0	0
将棋					1	1	0	0	1	1	0	0
模型づくり, モデルシップ作成					3	3	0	0	3	3	0	0
紙工					1	0	1	0	1	0	1	0
楽器演奏					1	1	0	0	1	1	0	0
旅行					1	1	0	0	1	1	0	0
ドライブ旅行					1	0	0	1	1	0	0	1
計	73	53	15	5	35	25	5	5	108	78	20	10
趣味数	30種類				17種類				37種類			

表B-2 年令別趣味活動

	趣	名	
20才代	ゴルフ8	つり3 盆栽1 写真1 油絵1 スキー1 英会話1 推理小説創作1 音楽鑑賞2 ドライブ1 コイン収集1 絵画1 サッカー1 ヨット1 日曜大工1 囲碁1 剣道1 ラクビー1 ギター1 ロックバンドのドラムス1	30
30才代	ゴルフ14	日曜大工4 テニス1 彫刻1 ハム1 民芸品収集1 鉄道車輛1 つり5 OR1 名所旧蹟1 音楽鑑賞1 洋らん栽培1 スキー1 ドライブ3 プラモデル1 写真1 将棋1 狩猟1	40
40才代	ゴルフ24	日曜大工6 名所旧蹟5 写真2 囲碁2 コイン収集1 ハム1 園芸7 旅行4 ドライブ2 音楽鑑賞1 尺八1 詩吟1 古代史研究1 モーターボート1 剣道1 体力づくりトレーニング1 民芸品収集1	62
50才代	ゴルフ5	旅行1 ドライブ1 切手収集1 ボーリング1 音楽鑑賞1	10
年令不明	ゴルフ2	熱帯魚飼育1 奇術1 帆船模型1 つり1 尺八1	7
*		趣味なし15	15
計			164

② 誰と実施するかをみると、表B-3のごとく、複数回答で、個人をあげる人が76人(39.8%)、船員会社仲間をあげる人が51人(27.6%)、家族と一緒にする人が39人(20.4%)、その他25人(13.1%)である。一方ゴルフは船員・会社仲間との活動51人のうち43人を示している。つまり、船員は、ゴルフを除くと、船員・会社仲間と行う趣味活動は実に少なく、わずか8人がしているにすぎない。すなわち、船員の趣味活動は自分自身を含めた船員の家族の範囲のなかでほとんどがなされていることが特徴である。

しかし、その他の人々となされているものの実態をみると、クラブの会員と(ゴルフ・ヨット)、同好会で(スキー、狩猟)、友人

と(つり、テニス、ドライブ、ドラムス)、世界中の友人と(アマチュア無線)、道場で(剣道クラブ、スポーツ少年団)、スポーツ教室で(S市、体育館スポーツ教室)等がある。詩吟で穂水流国民吟詠会会員もいる。

③ 年令と経験年数

経験の長いのは日曜大工(平均12年)、つり(平均11年)であり、ゴルフ(平均7年)、園芸(平均7年)も長い。これらは、各年令層であげられている。これに対して、旅行は平均12年で、40才以上の人に多い。同じく名所旧蹟も30才代の1人の他はすべて40才代の人であり平均9年である。しかし、ドライブは各年令層にあげられてはい

るが、平均年齢が短かく、特に0年が1人、1年が3人、4年が1人もいることが特徴である。

C 趣味活動の具体例

現在、船員が行なっている趣味は37種類とひとくちにいても、実際はその趣味を行うために、船員というある意味では特殊な生活(乗船中と休暇中のサイクルがあること)が有利に作用している場合もあるし、不利に作用している場合もあるし、それほど影響を与えていない場合もあると考えられる。そこで、これらの点を考慮に入れながら、以下に、趣味の具体例をあげてみる。(本文略)

1. サイクル(乗船・休暇以下略)が有利に作用している例
 - a 航海中の積極利用例・有意義利用例
積極利用例
 - 1-a-① 英会話, M氏, 26才, 甲板員
 - 1-a-② 木工細工, R氏, 31才, 甲板手
無意識な利用例
 - 1-a-③ 彫刻, Q氏, 37才, 機関手
 - 1-a-④ 帆船模型づくり, P氏, 38才
甲板手
 - b 停泊時の積極利用例, 特に外地停泊時
 - 1-b-① 民芸品および骨董品収集, H氏,
42才, 船長
 - 1-b-② コイン収集, S氏, 24才,
三等航海士
 - 1-b-③ つり, V氏, 33才, 機関手
 - 1-b-④ ゴルフ, N氏, 43才, 船長
 - c 休暇中の積極利用例
 - 1-c-① 日曜大工, W氏, 42才,
機関手
 - 1-c-② 名所旧蹟めぐり, G氏, 34才,
甲板手
2. サイクルが不利に作用している例
 - a 乗船・休暇のサイクルの不利の克服例
 - 2-a-① 剣道, E氏, 42才, 甲板手
 - 2-a-② 切手収集, O氏, 53才
 - 2-a-③ 洋らんの栽培, F氏, 38才,
一等航海士
 - b 乗船・休暇のサイクルをもつ, 不利は不利のままとしての, 休暇中の積極利用例
 - 2-b-① ヨット, B氏, 26才, 三等航海士
 - 2-b-② ロックバンドのドラムス, A氏,
20才, 甲板員
3. 乗船・休暇のサイクルがあまり大きな影響を与えていない例
 - 3-① 油絵, C氏, 27才, 二等航海士
 - 3-② 奇術, M氏, 機関部員
 - 3-③ 囲碁, T氏, 46才, 機関長
 - 3-④ 音楽鑑賞, D氏, 45才, 通信長
4. 船員であることが, むしろ有利な影響を与えていると考えられる例
 - 4-① モーターボート, K氏, 48才,
一等航海士
5. 現在はあまり普及していないが, これから将来にかけて, のぞましいと考えられる例
 - 5-① 学問—日本古代史研究(耶馬台国)—
I氏, 49才, 一等機関士
 - 5-② 体力づくりトレーニング, L氏,
46才, 機関長
 - 5-③ けいごと—詩吟—, J氏, 48才,
船長

D 実施人数の比較的多い趣味活動
の内容の実態について（本文略）
（実施者のパート、実施時の仲間、実施時期、
経費、年齢と経験年数、きっかけ、目的、
等について）

1. ゴルフ
2. 日曜大工
3. 園芸、盆栽（造園も含む）
4. つり
5. ドライブ、旅行、名所旧蹟めぐり

E 今後の課題

以上、休暇中の船員に対して行った、趣味のアンケートの結果をもとにして、現在の趣味活動を中心にして、その実態について明らかにしてきた。得られたアンケートは164通であったが、そのうち、実に151人が趣味をもち、船員が、個人として、乗船・休暇をいかに生き生きと生活しているかを推測することができた。しかし、A章で述べたごとく、国の豊かな福祉にうらうちされてこそ、国民の豊かな余暇活動の発展がある。船員においても例外ではなく、より豊かな、より人間らしい余暇活動ができるということは、船員社会がより豊かであるということであろう。

今回の調査からいえることは、船員は、種々の趣味活動をしており、そしてそのうちのあるものは、乗船中や休暇中（社会一般に比して長い）という、船員の、ある意味で特権として得られる生活の機会を積極的に利用しているものであるが、特徴的なこととして、船員福祉という分野からの船員へのアプローチがほとんどみられないということである。（ただし、具体的には出てこなかったが、旅行や名所旧蹟めぐり

という趣味活動を行う人にとっては、全国各地の保養所が直接的に役に立っているかもしれない。）そこで、今後の船員福祉という面からの船員へのアプローチとしては、昨年の報告書にも述べたように、仮称「船員レクリエーションセンター」等を設置するなどして、種々の情報のサービスや物品の購入、活動の指導等、直接的には船と陸の中間に存在するものとして、間接的には乗船中に実施できない個人にかわってのある程度の活動を行う等、よろずサービスの機関・制度を確立することであろう。その場合、特に趣味活動の指導者を含む人的ストック、図書・楽器・フィルム等の文化的ストックを大はばに確保することが必要であると考えらる。

J. デュマズディエが、その著「余暇文明へ向って」というなかでのべているように、余暇が大はばにふえたことによって、新しい遊戯人（これまでになかったような、大衆文化の欠くべからざる要素として遊びをもっている人）や、新しい知性人（余暇を学習に費す人）や、新しい社交人（ゴルフやテニス、ボーリング等でみられる社交のある一定のクラブ等で行う人）等がふえていることは事実である。船員の場合も、個人の要求によって、その気があれば、何でもが可能であるような、船員福祉を充実させることが早急にのぞまれる。

（広田 弥生）